

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

鈴木 健一

The consideration of fundamental knowledge in the Japanese
language education of an elementary school (3)

About the vocabulary of the teaching materials
related to a traditional language culture②

Kenichi SUZUKI

この調査・研究は、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に分類される教科書教材の語彙に関するものである。

前稿では小学校第1学年及び第2学年の教材を、第一段階として取り上げた。全教材から語彙を取り出して分類し、傾向をとらえた。その上で、小学校低学年の子どもたちの学習力との関わりを考え、併せて、指導者にとって必要なことや留意すべきことを明らかにしようと試みた。

本稿では小学校第3学年及び第4学年の教材を取り上げ、使われている語彙を取り出して分類し、傾向を探った。

I ねらい

ここまで、小学校国語の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のうち、伝統的な言語文化に関わる教科書教材を明らかにし¹⁾、第1学年及び第2学年の教材に出現する語彙を取り出して分類してきた²⁾。

ここでは、第3学年及び第4学年の教科書教材を対象にし、そこに用いられている語彙を取り出し、集めて分類するとともに、その傾向をとらえることをねらいとする。

II 語彙について

1. 語彙の調査

(1) 対象

小学校第3学年及び第4学年の教材を対象にした。五社の教科書に採られているのは、短歌や俳句、物語の一部、落語、故事成語、ことわざや慣用句、伝統的な文化の説明など、合

わせて48教材である。

同名の教材であっても、作者が違ふと使われる言葉にも差異が出てくるため、別教材とする必要があった。

例えば、落語『寿限無』は複数の教科書に採られている。語り手や編集の仕方によって、内容や「落ち」が異なっている。したがって、同名ではあるが、別の教材として扱うこととした。

また、採取する範囲は、次のようにした。

- ①教材本文のほか、教材名、小見出し、解説文からは採る。
- ②手引きの文章からは採らない。ただし、手引きに続けて事例が示されている場合は、手引きの文章及び事例から採る。

(2) 採取の方針

教材から語彙を取り出すにあたっては、次のようにした。

- ①固有名詞(人名、地名)は取らない。

(例)「柿本人麻呂」「三太郎」「田子の浦」「奈良」など。

したがって、落語の題名『寿限無』は採るが、「寿限無、寿限無、五劫のすり切れ、海砂利水魚の・・」と続く子どもの名前は採らない。

- ②助詞や助動詞は取らない。自立語のみとする。

(例)「となえながら」⇒「となえる」 「安心だ」⇒「安心」

- ③活用のある語は、基本形に集約する。音便形も同様。

(例)「買わ」「買え」「買っ」⇒「買う」

- ④話し言葉や方言もそのまま取る。

(例)「ええ (=よい)」「どじょっこ (=どじょう)」など

- ⑤歴史的仮名遣いはそのまま取り出し、発音する項に分類する。

(例)「けふ」⇒「きょう」と発音するので「き」の項へ。

- ⑥接頭辞や接尾辞が付いている場合も、別単語としてそのまま取り出す。

(例)「お むすび」「行き たがる」「サメ さん たち」「お じい さん」など

- ⑦数字が付いた語もそのまま取り出す。

(例)「一軒家」「十二番」など

- ⑧複合語は分けずにそのまま一語として取り出す。

(例)「いくじなし」「飛び下りる」など

- ⑨補助動詞や補助形容詞は、取り出さないで一般の動詞・形容詞に含めて考える。

(例)「むすんであげました」⇒「あげる」に含める。

(3) 分類の基準

分類は、阪本一郎の『新教育基本語彙』に拠った。同書では、小学校を低学年と高学年に分けて考えている。今回の学習指導要領の示している区分(2学年ずつ三つに区分)と違っているが、基準を示している希有の書であり、重なる部分も多いことから、傾向を探る上では大いに参考になるものであると考え、使用させていただいた。

同書の区分は、次のようになっている。A2よりはA1のほうが、というように、各段階とも数字が小さいものほど重要度が高いものである。

小学校低学年(1～3年)		小学校高学年(4～6年)		中学校	
A 1	2570語	B 1	2364語	C 1	2444語
A 2	1730語	B 2	1979語	C 2	2344語
		B 3	1600語	C 3	2139語
				C 4	2101語

これによれば、小学校中学年の子どもたちに身につけさせるべきは、A段階の語彙に加えてB段階の語彙の一部ということになる。

(4) 調査結果

調査結果は、次のようであった。

ただし、一覧にまとめるにあたっては、手を加えた点がある。

- ① 教材の中の語の表記は、中学年の教材であるために、ひらがな表記のものも多い。しかし、同音語や同訓語が存在するために意味の上で区別する必要がある語、漢字を使うことで意味が分かりやすくなる語もある。そのような語については、教材の中での表記にかかわらず、漢字を用いた。例えば、「ふく」という語は、意味を考え次のように区別して表記した。「吹く」「福」「服」
- ② 同じ表記になってしまうものがある場合、例えば、何かを指し示す代名詞の「それ」と掛け声を表す「それ」は同じ表記になってしまうので、後者に〈感〉と付記して感動詞の「それ」であることを示した。また、話し言葉に「ええ」があるが、掛け声や返事の「ええ」と区別するために(=良い)と意味を補足した。
- ③ 漢字表記は同じだが、読みの異なるものもある。その場合は()の中に読みを入れて整理した。例:「春日(はるひ)」「東(ひがし)」「東(ひんがし)」など

小学校第3学年及び第4学年の伝統的な言語文化に関する教材の語彙分類(表1)

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし									
あ	間 相手 会う 合う 赤い 上がる 明るい 赤ん坊 秋 開ける 空ける 明ける あげる (=やる) 上げる 朝 浅い 朝顔 朝飯 足 味 明日 汗 畦 遊び 遊ぶ 暖かい 頭 新しい 辺り 当たる 暑い 集まり 集まる 集める 当てる 穴 あなた 姉 あの 油 甘える 雨 争う 表す ありがたい ありがとう ある (=とある) 在る 有る 歩く 泡 合わす 合わせる あわてる あんな あんまり	ああ<感> あっ<感> 赤とんぼ 秋風 空き地 明け方 足元 あたし あちらこちら あっち 天の川 雨だれ 雨水 あやす ありつたけ あら<感> あれ<感> あれこれと	味わう 跡 当てはめる 誤り 歩む	あいつち 明け暮れ	青がえる あぎれる あさり 味付け 荒海 あんぐり	有明 あるじ	あげく			あい<感> あいうえお あい戦う 相手側 相手チーム 青々 赤組 明さ 赤ちゃん 明るさ 明く 明けても暮れても 浅し 朝ぼらけ 足ごしらえ あしびき 遊び回る あたしや あたたかし あたる (=剃る) あちら 暑さ あっし あと (=残すところ) 後 逢ふ あなたごなた あなた様 天下り 天つ風 天の原 あまり (=それほど) あまり (=相当) 網飾り あやしがる あら 荒い あらっ あらむ あらんかぎり あり得る ありがてえ 歩き出す 歩き回る あれあれ<感> 合わさる あわす 合わせ行く 遭わせる	56個	18	5	2	6	2	1		49
い	いい 言い方 言う 家 以外 いかが 息 いきなり 生きる 行く 幾つ 幾ら 池 石 意地 以上 忙しい 急ぐ 痛い いたす 頂 いただく 痛む 一 位置 いちばん 一面 いつ 五つ いっしょ いっばい いつも 糸 稲 稲光り 犬 命 今 意味 嫌 いやいよ いる 入り 入る 入れる 色 いろいろ 岩 祝う	言い合う 生き物 一度 いちどき 銀杏 稲荷 稲刈り いや(=否) 入り口 いわし	いざ 至る 一斉 いろどる	言い伝え 言い伝える る いたわし いっそ	いくたび 入り江	いにしへ	一瞬 いずこ いわれ	いたづら	いっぺん (=一度) 威	いう (~という) 言う様 家中 胃薬 幾夜 いさ 十六夜 いざよう いそがせる 急ぎすぎる 一音 一月 一月七日 一二三四五六人 一日 一年 一年間 一年前 一羽 一文 一枚 出づ (=でかける) いつか 五日 一回 一ヶ月 いづく 一軒 一劫 一刻千金 一冊 一首 一石二鳥 一足 一兎 いつのまに 一匹 いっぺん 一本 いつまでも いでっ (=痛い) <感> いと (=たいそう) 稲葉 稲穂 一富士									

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
い	49個	10	4	4	2	1	3	1	2	いほ（＝庵） 居待ち いち名月 いや〈感〉 いやはや 滝れる 色づく いろは歌 いろはかるた 54
う	32個	3	4	2		2				有為 ううんと 植えかえる うたいあげる 打ち出づ 打ち落とす 打ち重なる 打ち砕く 卯月 美し 美しさ うっとり（と実って） うち（＝自分の所） うち過ぐ 内外 うなずき 奪い取る うまい具合 うまし 海開き 海辺 浦々 浦島太郎（作品名） 裏面 うるう四月 うるう月 売れ残る うるくず うんめ（＝おいしい） 雲来末 30
え	9個	2	1		1	1				えいほう〈感〉 えいやら〈感〉 えう（＝酔う） ええ〈感〉 ええ（＝よい） ええっ〈感〉 えがえが〈感〉 えっ〈感〉 江戸いろはかるた 江戸時代 絵札 絵巻 絵巻物 えらい（＝大変な） 選びきる える（＝いる） 演じ分ける 17
お										お〈感〉 おっ〈感〉 お上がり おいおい〈感〉 お医者 お稲荷さん お祝い おうい〈感〉 応援団 王様 お馬 おお〈感〉 大岩 大枝 大男 大きき 大ききだ（＝大きな） 大きな おおごと

研究紀要 第37号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
お	押さえる おじいさん 教え 教える おしょう おしょうさん 遅い 襲う 恐れる お互い 落ち着く 落ちる おっしゃる 音 お父さん 弟 男 落とす 大人 驚く おなか 同じ 鬼 おば おばさん おばあさん 帯 覚える おぼれる おまえ おまえさん おまけ おまけに 重い 思い 思う おもしろい 表 親 泳ぐ およそ 下りる 降りる 居る 折る 俺 下ろす 終わる 恩 女	思い出 思わず おやく(感) 親方 折々								大そうじ 大空 大降り 大喜び 岡 お帰り お帰りなさい 尾頭付き おかゆ 生がる(=生える) お気 おきさき オギャーツ 置きまどはす お経 小草 臆病者 奥山 小倉百人一首 おくれ(=ください) お子さん お酒 おさむらい お七夜 おじちゃん お正月 おせち おそろおそろ 落ち お茶 落つ おっかあ お月様 おっきな お月見 お手つき お寺 お天気 お年寄り お届け お殿様 お供 躍る おなつかしい おぬし お願い おの(=自分の) おのれ(=おまえ) おばちゃん お初 お話 おはやし お久しぶり お日様 お姫様 おぶう お坊さん 覚え方 覚えきる 覚えやすい お星さま お盆 お参り お参りする おまどうさま お宮 お迎え お目 お珍しい おめでたい 思いいだす 思い浮かべる 思いえがく 思い込む おやおや お役 おら(=自分) おらほ(=自分の方) 降り来る おりひめ おりひめ星 折れる 温故知新
	70個	15	5		4	1	1	1		102
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
か	蚊 カード 貝 海岸 買う 返す 却って 帰る 蛙 顔 羅る 抱える 輝く 柿 限り 書く 覚悟 かくす 陰 掛ける かご	外国 海水浴 かしわもち 画用紙	海藻 街道 会話 かおり 欠ける 型 語る 門 関係 関する		かえで かぶと虫 神頼み からから	かつて	香 下弦 かしわ手 かわず	外食 元旦		海砂利 帰り道 顔じゅう カオラ かか(=奥さん) かがみもち 斯かる 掛かる 書き写す 柿売り かき氷 描き足す かぎろひ 描く かぐや姫 影

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
か	重なる 飾る 数 かすみ 歌人 風 風邪 数える 家族 肩 方(=方向) かたかな 形 傾く 勝ち 勝つ 学校 河童 かなう 悲し 悲しい 蟹 鐘 かぼちゃ かまぼこ 我慢する 紙 雷 亀 かもめ 通う 殻 からす からかう 体 借りる 刈る 軽い 歌留多 枯れる 川 かわいそう 乾く 代わり 変わり 変わる 考え 考える 雁 感じる がんばる		完成する 看病する							懸ける かしまりました 数え尽くす 数え始める がたがた 片敷き かたぶく ガッキ 門田 金もうけ かへりみ 鎌倉時代 がまずみ 我慢する 上方いろはかるた 上の句 通ひ路 刈り取る 仮庵 借る かるた遊び かるた取り 枯野 軽し かわいらしい 川辺 川べり 川流れ 寒明け 感じ取る 雁汁 雁ども 神無月 観音様 慣用句 慣用句カード
	72個	4	12		4	1	4	2		52
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
き	気 木 消える 聞く 菊 機嫌 聞こえる きざむ 岸 季節 北 気づく きっと 狐 昨日 きのご 気分 決まり 決まる 君 決める 気持ち 着物 客 急 今日 行事 教室 行列 霧 桐 ぎりぎりす きれい 切る 着る 金魚 近所	桔梗 木登り きらきら 切り倒す	気味 逆に	漁夫						きいきい ギイコン 聞き手 尋く 効く 季語 如月 季節感 北国 ぎつつり 気に入る きのご売り 決まり文句 きもだめし 気持ちよい ぎゅう 杞憂 九年 けふ(今日) 経文 漁夫の利 ぎり(=かざり) 切れ間 きんぎん 近郷近在
	37個	4	2	1						25
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
く	具合 食う くぎ 草 鯨 薬 崩れる くださる 果物 口 くちばし 靴 国 首 くふう 組む 雲 くやしい 暗い 位 暮らす クラス 比べる 栗 暮れ くれる 暮れる くる 苦しい 加える	食いしん坊 食いつく くま手 繰り返す 繰り返す くるり	句 区切り グループ	食い込む 組み合わせる	草笛		葛	ぐでんぐ でん 雲隠れ	具	来 食い終える くいきい 食いしんぼ 食い始める ぐえんこ(く感) 九月 九月十三日 九月一日 九月二十三日 くがね(=黄金) くくりつける 草木 草取り 九時 ぐずぐずする ぐちゃっ 句碑 食ふ くふうする くみかわす

研究紀要 第37号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
く	30個	6	3	2	1		1	2	1	くもの子 栗名月 くろう 苦勞する ぐんぐん 26
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
け	10個	2	4	1		2		1		蛍雪 結婚式 決心する 家来たち ける (=くれ) けるけるけるっ 牽牛 牽牛星 源氏 賢人 けん玉大会 けん玉名人 原点 源平合戦 14
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
こ	40個	11	3	3	1	4	1	1		交換する 五音 越えかねる 越え来る こおどりする 五月 五月五日 五月二日 五月六日 ごぎょう ご近所 国語辞典 こける 五劫 九重 心当て 五歳 ございます ござんす 故事成語 小島 五尺 五十歳 五十枚 五十歩 五十歩百歩 ご先祖様 堪える 子宝 小道具 子どもたち 子どもら ことわざブック 子猫 五分 こぼる こま回し ごめんなさい ご用 子ら こりゃ これ<感> これから これら 転がり落ちる ころころころりん 衣手 ころりん こん (=こと) こんちは 50
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
さ	最初 最後 棹 探す さかずき 魚 盛ん 先 咲く 桜 酒 叫ぶ 笹 匙 指す 差す させる 誘い 誘う 早速 さっぱり 里	さあ<感> 酒屋 咲き乱れる 酒飲み さっさと さっと さつまいも さて 里いも	差 作品 障る 去る	作者 作物 鯖	三が日	策 五月雨	皐月 さやか	咲きにおう		さあさあ さい銭箱 桜餅 酒好き 朔 朔日 作品例 笹竹 笹餅 さしかかる 射す さてさて ざぶざぶ 寒さ 寒し 寒々 さむしろ さやけし 小夜 騒ぎ立てる

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
さ	寂しい 寂しさ さびれる 覚ます 覚める 寒い 血 猿 される 騒ぎ 騒ぐ 三 さんざん 散歩	さまざま さらさら								三月 三月二十一日 三月三日 ざんざ 三歳 三首 三十一音 三十五歳 三十日 三十日弱 三十年 三十歳 三寸 三千年 三度 三なすび 三年 三年生 三年峠 三百 三百年 三六〇日 三六五日 三步 三、四年 三列
	36個	11	4	3	1	2	2	1		46
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
し	字 幸せ 潮 潮干狩り 鹿 しかし 叱る 時間 静か 沈む 自然 下(した) 七 しっかり 実際 じっと 失敗 失敗する しっぽ 失礼 自転車 死ぬ しばらく 縛る 自分 仕舞い しまう しみる 閉める 地面 下(しも) 霜 しゃく 写真 しゃべる 砂利 自由 種類 順 準備 小学生 正月 正直 上手 勝負 醤油 植物 知らせる 調べる しるし 白い 汁 知る 心配	仕上がる 四角い 仕方 しがみつく 七五三 四方 しゃぼん玉 三味線 十五夜 白菊 しりもち 汁粉 白酒	詩 しおり 四季 時期 仕立てる 時代 親しむ 辞典 忍ぶ しばし しみじみ 収穫 習慣 秋分 寿命 順位 瞬間 春分 正体 人口 人生 親戚	しずしず しっくり じっくり 実は しぶき 除夜 新米	住人 白雪	色紙 周辺 ショート ケーキ	シュート 性 上弦 しろがね 師走	如く 霜月	しからば	四月 鴨 四季ごと 閑かさ 静けさ 静心 沈みかける 死する しだり尾 しっかと しっかりする 失敗する 字札 自分だけ 自分たち 七音 七月 七月七日 七時 島々 しみ入る 下の句 霜夜 じゃく接 じゃあく感 ジャングゴング 十一月 十一月十五日 十一月七日 十月 十九日 十五日 十五日目 十三か月 十三日 十三夜 十三夜月 十七音 十七世紀 十七日 十八日 十二 十二月 十二月十三日 十二月二十二日 十二時 十二年 十人一首かるた 十里 十六日 寿限無 十組 十歳 十首 仕様 生 紹介する 正体ない しょうぶ湯 織女 織女星 しょっぺ (=しょっ ぱい) しょんぼりする 白露 じれったい 知れ渡る 白組 白妙 しをるる 新月 新茶 心配する しんぺ (=心配) する 新芽
	54個	13	22	7	2	3	5	2	1	74

研究紀要 第37号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
す	図 すいか ずいぶん 末 姿 好き 過ぎる すぐ 少ない スケート すごい 少し 過ぎす 鈴 進む すずめ すっかり 捨てる すべる すみれ 住む 相撲 する 擦る すると すわる	数字 すごすご すすき すってんこ ろり ずっと スプーン ずぶぬれ ずらり スリッパ	水田 すがる すぐれる 全て ずれる		すすはらい					す (=する) すいか割り 水魚 水行末 推敲 水車屋 ずうっと 過ぐ 少なし スケート靴 すごろく遊び 筋立て すずしろ すずな すっ飛ば ずっぱり 砂子 すね (=脛) こ 澄み切る すみません すみれ草 ずらあつ ずりずり すり切れ 播る
	26個	9	5		1					25
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
せ	生活 背負う 世界 せがむ 咳 せっかく 節句 説明 銭 狭い 蝉 世話 扇子 先生 戦争 全体 全部	芹	瀬 性格 政治 成長 石碑 節分 善	戦場	せいぞろい		関			せいくらべ セイヨウミザクラ せえの〈感〉 せかるる 関守 背中 全校集会 千三百年 千三百年前 千年
	17個	1	7	1	1		1			10
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
そ	そう そうして 相談 雑煮 草履 添える そこ そこで 育つ 育てる 袖 外 供える その 蕎麦 側 粗末 そまる 空 それ それぞれ そろそろ そんな	そいつ そのうち そっち そらく感 ぞろぞろ	想像 そよぐ	早朝 存ずる	そうめん					想像する 相談する そして そのまま そのまんま ソメイヨシノ 空音 そりゃ そりゃあ それえ〈感〉 それはそれは それほど ぞろぞろっ ぞろぞろわらじ そん (=その) そんで
	23個	5	2	2	1					16
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
た	田 鯛 たいくつ 大根 大切 大事 たいして だいじょうぶ たいそう 大体 だいぶ たいへん 太陽 倒す 高い 互い 宝 抱く たくあん たくさん 竹 出す 尋ねる ただ (=限定) だだ (=わがまま) ただいま 戦う 叩く 正しい 正す 畳	田植え 竹の子 助ける 経つ たてがみ 七夕 たま(=まれ) たまげる (=おどろく) ため息	対する 代表 台風 大漁 多少 例え たとえ(= もし仮に) 例える たなびく たわむれ 短歌 反物		端午	ただし 短冊	高嶺 蛇足 ためらう			太陰暦 大河 大会 第三者 大の 代表する 代表的 大木 大行列 太陽暦 絶え間 高さ だから 滝川 抱きつく 竹取 竹取物語 たこあげ 出し合う 助く たすき 戦い合う 立ち上がる 立ち出づ 立ち連ねる 立ち止まる 立ち並ぶ 立ち昇る 立ち待ち 断つ

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	
た	たちまち 立つ 立てる たぬき 種 楽しい 楽しみ 楽しむ 頼む 食べる 玉 だます たまらない たまる だまる ため 試す だめ たもと 足りる だれ 垂れる 団子 だんだん 田んぼ たんぼぼ									七夕飾り 七夕様 七夕祭り たぬきたち たぬきども たぬき流 楽しさ 旅立つ 食べ過ぎる 食べ物 卵焼き たれ たんこぶ 誕生日	
	57個	9	12		1	2	3			44	
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	
ち	地 血 智慧 違い 違う 力 遅刻 茶 ちゃんと 注意 中心 調子 ちょうだい ちょうど 貯金 ちよっと 散らす 塵 散る	近づく 近寄る 千鳥 茶店 ちよいちよ ちよいと	地上 地方 中間	ちまき 地名 茶摘み 茶所 中国	チーム 中秋	地域				小さな 近く 近し 父親 父母 縮める ちと 千歳飴 ちひさい 茶代 茶屋 ちゃんばらごっこ 長久命 鳥獣人物戯画 挑戦する ちょうちん持ち 直前 散り乱れる	
	19個	6	3	5	2	1				18	
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	
つ	つい ついたち ついで 杖 使い 使う つかまえる つかむ 月 次 付く 突く 着く 作る 付ける 着ける 伝える 伝わる 土 筒 つつき つぶれる つまずく 摘む 積もる 露 梅雨 強い 釣り 連れる 鶴 釣る	つつく つるつる	常 弦	面	使い道 つきあわ せる				つれづれ	つうっ 使い方 つきっきり 月見 月見団子 月夜 つけこむ 伝え合う つまらねえ 冷たさ 貴きとめる 釣り上げる 連れ込む	
	32個	2	2	1	2				1	13	
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	
て	手 丁寧 手紙 できる 手伝い 手ぬぐい 寺 天 天気 天井 天人	出会う できあがる 出来事 ですから では 手まり てんとう虫	手間		てっきり でんぐり 返り 天女				デザート		てえ (=という) 出かける てきめん 手まり歌 でも 出る てん (=ということ) 転校する 天井裏 天神様
	11個	7	1		3			1		10	
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	
と	戸 塔 問う どう どうか	通りかかる 年取り	峠 動作 同時	とたん	とちめる 取り囲む				同然 鈍	とう (=とつく) 登場人物 動物たち	

研究紀要 第37号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
と	<p>どうして とうとう 動物 どうも 十 遠い 通り 通る 時 解く 毒 得意 特別 とける とこ (=所) どこ ところ ところが ところで 床屋 年 閉じる 途中 どちら どっさり とても 届く 隣り どなる どの 飛ぶ 友だち 虎 鳥 取る 採る どれ 泥 どんだん どんな</p> <p>45個</p>	<p>取り戻す とんでもない</p> <p>4</p>	<p>冬至 当然 特徴 突然 鳥居 整える とにかく 共に とらえる</p> <p>12</p>	<p>1</p>	<p>2</p>				<p>2</p>	<p>同様 どうん 遠し 遠山 年こしそば どじょっこ どちら様 とつくり とと とと様 とどめる となり村 殿様 どのような 飛ばす 飛び出つ とび上がる 飛び込む 飛び立つ とびだす とびつく 問ふ どぶ貝 苦 苦屋 取り終える 取り手 取り札 取れる 採れる 捕れる とんでもねえ とんと(=まったく)</p> <p>36</p>
な	<p>名 無い ないしょ 苗 なおる 中 長い 流す なかなか 仲間 眺め 眺める 流れる 泣く 鳴く なくす なくなる なぐる なさる 無し なぜ 夏 なでしこ なでる 何 名前 波 涙 なめる 並べる なる 鳴る なるほど 苗代</p> <p>34個</p>	<p>長生き 中頃 仲直り なんと<感> 何度</p> <p>5</p>	<p>名残り なぐさめる なだらかな なやむ</p> <p>4</p>	<p>何しろ 檣 成り立ち</p> <p>3</p>	<p>長屋 泣きっ面 夏休み 夏祭り 何とも</p> <p>5</p>	<p>汝</p> <p>1</p>			<p>なずな</p> <p>1</p>	<p>ない(=違う) 長生きする 長さ 長竿長し 長々し 眺む 眺めやる 仲良く 鳴き声 鳴き始める 泣き泣き 泣きやむ なぞなぞ遊び 名付け親 夏水 夏盛ん 七草 七草がゆ 七十歳 七歳 七種類 七分 なにいっ<感> 何事 何やら 七日 菜の花 なまけもん なら (=それでは) 並べ方 縄こ なん (=何) なんせ なんたつて なんたて なんて なんてんで (=とい うようなくあい) 何人 何年 何百年 なんぼ 南北 何枚</p> <p>44</p>
に	<p>二 におい におう 苦い 逃がす 握る 肉 にごす にこにこ 逃げる 西 にっこり 似る 庭 人間</p>	<p>逃げ出す 日本一</p>	<p>日食</p>	<p>二百十日 入道雲</p>		<p>錦</p>		<p>にたりよっ たり</p>		<p>においこ 二回 逃がす 二月 二月二十日 二月三日 二月四日 逃げ帰る 二軒 二、三辺 錦織物 二者 二十九日 二十歳 二十五歳 二十三日 二十四、五 二十四、五歳 二十首 二鷹</p>

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
に	15個	2	1	2		1		1		にっこりする 二兎 二度 二番目 二百年 にほふ 日本 日本各地 日本人 日本列島 入学式 31
ぬ	ぬか 抜く 抜ける 濡れる 4個				塗り立て 1				ぬかる 1	抜きにくい 拭う 2
ね	根 願い 猫 ねずみ ねだる 根元 寝る 年 8個	年中行事 1	音 ねたむ 念仏 年齢 4	年末 1	年賀状 1					子 ね (=無い) ねえ (=無い) 願いごと 寝覚め ねずみたち 鼠の草紙 根っこ 寝待ち ねむりこける 10
の	野 ノート 退く のこぎり 残り 残る 後 のどか のびる 昇る 飲む 乗る 12個	残らず 野原 2	能力 のれん 2	農家 轍 (のぼり) 2	軒端 1	臨む 1				農作業 載せる のたり のどけし 飲む 野山 載る 7
は	葉 場合 ばあさん はい<感> 入る 這う 蠅 ばか 激しい 化ける 運ぶ 橋 端 始まり 始まる 始め 初め 初めて 柱 走る 場所 はず はずかしい はずむ はだし 働く 蜂 はつきり 花 鼻 話 話す 離す 放す 花火 離れる 羽 跳ねる 母 はまぐり はまる 早い 速い はやる 腹 春 張る 晴れる 晩 反対 50個	は<感> ばかに 履き物 羽衣 はじける 二十日 初雪 初夢 花盛り 花摘み 花見 花嫁 母親 浜辺 14	俳句 はがれる 果て はばたく 場面 はるか 繁盛 7	萩 初春 はて<感> はみだす 張り合う 5	はさむ 花吹雪 2	はかない 1	生え抜き 1	謀る 端 (はな) 2	はこべら はぜ (植 物) 2	場 はっ ばあ<感> 這い上がる はあはあ ばかり はかりしれず 履きよい 化け方 化け競べ 化けの皮 はさ はじく 初めまして パジャン 走り出す 葉末 八月 八月七日 八月十五日 八時 八文 ばっかし 葉月 初霜 八節 初天神 初日の出 八百年 嘶家 花見団子 花見弁当 はね起きる パフェ はべり 早む 早め 腹こ 春日 39

研究紀要 第37号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ひ	日 火 東(ひがし) 光らす 光 光る 彼岸 引く 弾く ひげ ひざ 額 ひっくり返る 引っ込む 引っ張る 人 ひどい 一つ 一人 独り ひな人形 ひびかす ひびき ひも 評判 病氣 ひらがな 開く 昼 広い 捨う 広がる	引きかえ 日暮れ ひごい ひっかく 火花 ひまわり ひやひや	被害 久し 久しい 必要 表現 日和	引き入れ る 日差し ひねる 干る	彗星 人目 日長		秘伝	ヒント	柊	陽 光り輝く 引き返す 久方 日だまり ひと声 人たち 人々 一葉 びっくりする びっしり びっちり ひづ 人がた 左手 一言 一筋 人だかり 一日(ひとひ) ひとひら ひとまとまり 一目ぱれ ひなあられ ひなたぼっこ ひな祭り 終日(ひねもす) 日の出 日やけ顔 百首 百人 百人一首 百人一首かるた 百年 百べん 百歩 百両金 ひよいころ 票 表現する 昼間 東(ひんがし) びん
	32個	7	6	4	3		1	1	1	42
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ふ	風鈴 プール 増える 深い 深まる 服 吹く 含む 含める 無事 不思議 札 二つ 二人 ふつう 筆 ふと ぶどう ふとん 文(ふみ) 麓 冬 ぶら下がる 降り 降る 振る 古い ふるえる 古里	ぶつぶつ 振り上げる プレーキ ふんすい	風景 福 更ける 部分 ふらつく ふるまう (=ごち そうする) 文章	古池	古びる					ふうく感 風来未 ふうわり ふうん ふええく感 深さ 深し 吹き落とす 吹き下ろす 吹きしく 吹きとどる ふじばかま 臥し待ち 二日 文月 ふでりんどう 二組 二人とも 鮎こ 踏み分ける 冬菊 冬景色 ぶらぶら 振り仰ぐ 振り返る 振りさけ見る 降り出す 降り続く 降り続ける 降り積もる 振り回る 古る ふれ歩く 無礼者 不老不死
	29個	4	7	1	1					35
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
へ	へそ 別 蛇 部屋 辺	ペンキ	変化							へええく感 へえへえく感 平安貴族 平氏 兵士 べったんころりん 別に
	5個	1	1							7

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ほ	方 棒 坊さん 坊主 方法 ほうぼう ほか ぼく 星 ほしい 干す 牡丹 ほとんど ほど 骨 掘る 盆 本当 ぼんやり	ぼつぼつ ほらく感 盆踊り ボンボン 本物	方向 ほととぎす ほぼ	細々と ほどほど ほのかに	骨身 骨休め				ほこら	ほいきた ほうら 星うつし ほしさ 星取り 星祭り ぼっか 仏の座 ぼどり (=ぼとり) ほらあっく感 ぼろぼろ ぼんやりする
	19個	5	3	3	2				1	12
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ま	間 参る 前 負ける まことに まず ますます またく接 まだ 町 間違う 松 待つ 真っ赤 真っ青 まっすぐ まったく まとめる まな板 まね まぶしい 丸い まるで 周り 回る 漫画 まんじゅう	まあく感 まごい まだまだ 真っ逆さま 真っ先 真っ白 満月	まさか まさかり 勝る 学ぶ 満開	舞い上が る	松並木 まんまと	まれ 満々		まとう (= 身につけ る)		まく感 毎朝 舞い下りる 毎日 前のめり 牧 横 巻きつける まき物 まじる またく副 または またも 待ち合わせ 待ちかねる 豆知識 豆まき 真夜中 まるや 真ん中 万年
	27個	7	5	1	2	2		1		21
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
み	身 実 三日月 短い 水 店 見せる みそ 道 緑 見つける 皆 峰 実る みまい 耳 都 妙 見る みんな 見事	見合わせる 見渡す			見合う 道のり	見立てる		晦日		見上げる 見える 右手 水音 水かさ 水草 水際 短し 店先 覗(みそぎ) 満ち欠け 満ち始める 三日 三日月 見つける 見つめる 水無月 水面 皆さん 見守る 見回す 見破る 見ゆ みる (=試みる) 見る間に みるめ (=海藻の名)
	21個	2			2	1		1		26
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
む	向かう 迎え 迎える 昔 向こう 虫 難しい 息子 結ぶ 娘 胸 村 無理		群がる 群れ			矛盾	村雨		昔なじみ	麦わら帽子 虫取り 武者人形 結びつく 睦月 胸こ むべ 村いっばい 無量 無量寿経
	13個		2			1	1		1	10
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
め	目 芽 珍しい めでたい		名月 名所 名物 めぐる	めぐり逢う					メス	明治五年 名人 目がける めだぬきども めでてえ
	4個		4	1					1	5

研究紀要 第37号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
も	もう 申す 文字 元 戻る 餅 持つ もっと 物 者 物語 粉(もみ) もみじ 模様 桃 もらう もれる 問題 18個	持ち出す 餅つき 盛り上がる	設ける もったい ない 最も もっとも 〈接〉		望月					もぐりこむ もっとい (=元結い) もののけ もみぢ葉 もみじがり もらい泣き もりそば もれ出づ 唐土(もろこし) もん (=物) 10
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
や	やがて 役 焼く 役目 易しい 休む 奴 やっと 宿 屋根 破る 山 止む やめる 遣る 15個	やあい〈感〉 焼きいも やりとり	約(=はま) 役立つ 養う	大和 野郎		宿る				やい〈感〉 八重桜 休める やせ蛙 やってくる 数柑子 山風 山桜 山路 山鳥 山道 山々 山百合 弥生 やりぬく やれ〈感〉 16
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ゆ	浴衣 雪 行く 湯気 譲る 弓 夢 許す 8個	雪解け ゆさゆさ 指さす	有名 豊か		夕	由来				夕方 夕暮れ 優勝する 夕日 夕焼け空 ゆかし ゆず湯 揺れる 揺るる 9
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
よ	世 夜(よ) 良い 酔い 用意 様子 ようやく よごす よす (=やめる) 読む 嫁入り より (=さらに) 夜(よる) 因る 寄る 喜び 喜ぶ よろしく 弱る 19個	夜明け 用足し 欲張る よし〈感〉 呼ぶ 弱虫	宵 よく (= 数多く) 詠む 縫(より)	よりあう		ようやく 夜もすが ら よろず よわい(= 年齢)	夜半		余寒	酔いつぶす 用意する ようし〈感〉 ようよう 横顔 よこたふ よごれ 夜桜 酔ったくれる 夜中 夜長 夜な夜な 呼び入れる 読み合う 読み手 読み札 寄りつく よれい〈感〉 よろよろ 四十七文字 四度 21
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ら				落語 1個						落語家 ラジオ体操 2
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
り	りっぱ 漁師 旅行 3個		利 利益 リズム 量	立春 立夏 立秋 立冬						両チーム 両方 良薬 3

小学校国語教育における基礎的素養の考察（3） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について②

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
れ	練習 1個		例 1							れんげつつじ 練習会 2
る	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1 老後 1	C 2	C 3	C 4	分類なし 六月 六月二十一日 六十歳 六十五歳 六年 六文 6
わ	A 1 わかす 分かれる 分かる 湧く 訳 分ける 忘れる 私 渡す 渡る 笑う わらじ わらび 割る 悪い 15個	A 2 笑い声 笑い話 悪さ 3	B 1 我(わ) 和歌 技 わざと われ 腕白 6	B 2	B 3	C 1	C 2 童 1	C 3	C 4	分類なし わいわい 若馬 若菜 わかりやすい わくわくする 話芸 分け入る わし(=自分) わたしたち わりわり われ先 割れる 腕白盛り 13
を	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし をとめ 1個

*「る」は該当語なし。

音別語彙数一覧(表2)

*数字はその段階の語彙数。空欄の場合は語彙の数は0。

音	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	合計
あ	56	18	5	2	6	2	1			49	139
い	49	10	4	4	2	1	3	1	2	54	130
う	32	3	4	2		2				30	73
え	9	2	1		1	1				17	31
お	70	15	5		4	1	1	1		102	199
か	72	4	12		4	1	4	2		52	151
き	37	4	2	1						25	69
く	30	6	3	2	1		1	2	1	26	72
け	10	2	4	1		2		1		14	34
こ	40	11	3	3	1	4	1	1		50	114
さ	36	11	4	3	1	2	2	1		46	106
し	54	13	22	7	2	3	5	2	1	74	183
す	26	9	5		1					25	66
せ	17	1	7	1	1		1			10	38
そ	23	5	2	2	1					16	49
た	57	9	12		1	2	3			44	128
ち	19	6	3	5	2	1				18	54
つ	32	2	2	1	2				1	13	53
て	11	7	1		3			1		10	33
と	45	4	12	1	2				2	36	102
な	34	5	4	3	5	1			1	44	97
に	15	2	1	2		1		1		31	53
ぬ	4				1				1	2	8
ね	8	1	4	1	1					10	25
の	12	2	2	2	1	1				7	27
は	50	14	7	5	2	1	1	2	4	39	125
ひ	32	7	6	4	3		1	1	1	42	97
ふ	29	4	7	1	1					35	77
へ	5	1	1							7	14
ほ	19	5	3	3	2				1	12	45
ま	27	7	5	1	2	2		1		21	66
み	21	2			2	1		1		26	53
む	13		2			1	1		1	10	28
め	4		4	1					1	5	15
も	18	3	4		1					10	36
や	15	3	3	2		1				16	40
ゆ	8	3	2		1	1				9	24
よ	19	6	4	1		4	1		1	21	57
ら				1						2	3
り	3		4	4						3	14
る											
れ	1		1							2	4
ろ						1				6	7
わ	15	3	6				1			13	38
を										1	1
計	1077	210	183	66	57	37	27	18	18	1085	2778
割合	38.7%	7.5	6.6	2.4	2.0	1.4	1.0	0.6	0.6	39.0	

2. 考察

調査結果から次のようなことが言えよう。

① 低学年と比べて語彙数が増大している。

低学年と中学年の語彙を比べると、次の表のようになる。

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	計
低学年	795	171	38	24	22	4	4	8	6	576	1648
中学年	1077	210	183	66	57	37	27	18	18	1085	2778

どの段階の語彙も中学年が多くなっており、BやC段階の語彙数はそれぞれ倍以上になっている。

② 低学年の重要語彙が多い。

中学年の教材ではあるが、低学年の重要語彙（A 1 と A 2 段階の語彙）が中学年の語彙の総数の46.2%含まれている。出現する語彙の半数ほどはすでに学習してきている段階の語彙である。

一方、4年生から6年生対象の語彙が11%、中学校の基本語彙であるC段階の語も3.6%含まれている。

③ 古語の形や歴史的仮名遣いで出ているものがある。

中学年の教材のうち、故事成語は現代語での解説になっているが、短歌や俳句は音数の決まっているものであり、語の形や表記がそのまま示されているものもある。例えば、「打ち過ぐ」「落つ」は、現代語では「打ち過ぎる」「落ちる」であり、「かはづ」は「かわず」、「けふ」は「きょう」である。

3. 今後の研究課題

① 他の学年の教材の語彙の分析

中学年までの調査が済んだが、高学年の教材ではどのような語彙が使われているのか、取り出して分析していくことが課題になる。その結果を今回までのものと合わせ、伝統的な言語文化に関わる小学校の教材全体の語彙をとらえていく必要がある。

ただし、平成27年度からは改訂された新教科書が使われているので、低学年・中学年の教材については一部再調査が必要となる。

② 指導のあり方の工夫

中学年の子どもたちにA段階の基本語彙を確実に身につけさせるにはどうすべきかを、まず考えていきたい。また、教材に含まれていたBやCに分類されている上位段階の語彙の意味や用法を子どもたちに理解させ、無理なく上手に活用させていくことも、考慮していく必

要がある。

4. 注, 引用, 参考文献等

1) 鈴木健一「小学校国語教育における基礎的素養の考察(1)」千葉敬愛短期大学紀要
第35号 p103～p122 平成25年

2) 鈴木健一「小学校国語教育における基礎的素養の考察(2)」千葉敬愛短期大学紀要
第36号 p161～p178 平成26年

・坂本一郎『新教育基本語彙』 昭和59年 学芸図書株式会社

・『みんなと学ぶ小学校国語』 三年, 四年 平成23年度版 学校図書

・『国語』小学校国語科用 三, 四 平成23年度版 光村図書

・『小学生の国語』 三年, 四年 平成23年度版 三省堂

・『小学生の国語 学びを広げる』 三年, 四年 平成23年版 三省堂

・『ひろがる言葉 小学国語』 3, 4 平成23年度版 教育出版

・『新しい国語』 三, 四 平成23年度版 東京書籍